

令和2年度第2回
大阪府市公立大学法人大阪評価委員会
議事要旨

- 1 日時 令和2年8月4日（火）午後2時30分～
- 2 場所 大阪市役所 屋上階（P1）会議室
- 3 出席委員 高嶋委員長、田辺委員、戸部委員、奈良委員、平野委員、吉川委員
- 4 議事内容

（1）公立大学法人大阪第1期中期計画の一部変更について

- ・ 公立大学法人大阪第1期中期計画の一部変更について、質疑応答、審議が行われた。
- ・ 審議の結果、中期計画の変更内容の一部について、設立団体及び法人へ再検討を求めた。

<主な意見>

- ・ 新大学設置に向けた様々な準備を進めていくということについて、記載が必要ではないか。
- ・ 新大学設置後も府立大学及び市立大学の学生は在籍し、当面存続していくということであるが、教員や学生の負担がないようにすることや、新大学への円滑な移行のための取り組みなど、移行期の対応について、計画に含むことができないか検討いただきたい。
- ・ 計画項目122の「研究者の育成」について、1つ目の・（ポツ）の効果的な支援制度とは何か。2つ目の・（ポツ）に記載の「効果的な人事制度・雇用制度」と異なることがわかるよう、1つ目の・（ポツ）に効果的な支援制度（人事制度・雇用制度以外）の具体例を追記いただきたい。
- ・ 計画項目125「5つの基礎力を育成するための科目群」について、5つの基礎力とカリキュラムポリシーの整合性が取れている旨を明記いただきたい。
- ・ 計画項目132「グローバル研究拠点の形成」について、論文の被引用件数等の数値目標を計画に記載すべき。あるいは、具体的な数値を明記できなくとも、具体的な数値目標に基づくことや、具体的な数値目標を重視したグローバルな研究体制に努めていくなどの記載を検討いただきたい。
- ・ 計画項目146「留学支援の充実」について、従来の延長線上にあるような計画になっている。より積極的取り組みなど、具体的に追記可能な記載があれば検討をお願いしたい。

（2）公立大学法人大阪2019事業年度業務実績に係る評価について

- ・ 事務局から資料2-2から2-5に基づき、小項目評価結果（案）、小項目評価における主な検討結果、公立大学法人大阪2019事業年度の業務実績に関する評価結果（素案）、業務実績報告書に関する各委員ご意見ご質問に対する法人の回答について説明が行われた。
- ・ また、法人から、参考資料2-4から2-7に基づき、法人の令和元年度の財務諸

表等に関して説明が行われた。

- 説明後、質疑応答、小項目評価及び大項目評価について審議が行われた。

<主な意見>

○ 業務実績に関する評価結果（素案）について

- 5ページ、「大阪府立大学の教育研究」に関する大項目評価に関しては、小項目評価において、評価Ⅲ以上の割合がB評価（「おおむね計画どおり」進捗している）とする基準の9割以上ではないものの、89.6%とほぼ9割であり、取り組みについては一定の進捗が認められることから、B評価が妥当。
- 7ページ、大阪市立大学の教育研究における、「地域産業との連携」については、地域の産業に関係する外部資金獲得の状況については年度計画を上回って実施しているとは認められず、評価Ⅲ（年度計画を順調に実施している）が妥当である。
- 10ページ、3-4「業務運営の改善及び効率化」に関する大項目評価における、理事長のトップマネジメントについては、必要な施策を計画通りに取り組んでいると評価できるが、年度計画を上回って実施しているとまでは評価しがたい。評価委員会としては、評価Ⅲが妥当と考える。
- 理事長のトップマネジメントに関して、より一層の取り組みについて、評価結果に記載してほしい。
- 10ページの評価にあたっての意見、指摘等に記載がある、ダイバーシティの推進に関しては、女性教員について記載があるが、女性教員に限定せず、幅広い視点から議論を深め、今後取組を進められたいといった意見にしてほしい。
- 11ページ、3-5「財務内容の改善」に関する大項目評価に関連して、法人の財務諸表等から、財政状態については、当期総利益を計上しており、資金的な面でも問題がないと判断できる。当期総利益については、外部資金獲得を進めるなど、法人の経営努力の結果によるものであると認められる。また、病院収益が前年度比で増加を実現するなど、とりわけ病院経営における経営努力は特筆すべき取り組みであると高く評価できる。

以上